

- 1 開催年月日 新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、委員出席での審議会が開催出来ず、在宅での審議となった。
- 2 開催場所 各委員へ、1月14日までにメールにて試聴番組の音声データを送付し、各委員は試聴後、その講評を1月21日までに返信した。
- 3 委員の出席 在宅での審議を行った委員数 5人
委員の氏名 小笠原 伸 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
新井 啓泰
高橋 淳

4 審議の概要

2021年12月31日に放送した特別番組

「昭和歌謡メモリー年末スペシャル決定版！昭和の名曲歌合戦 2021」について、試聴と意見交換をおこなった。

(番組説明)

毎週金曜日の13時30分から30分番組で放送中の昭和歌謡番組「昭和歌謡メモリー」の年末特番です。ゲストに元TFMアナウンサーの松本ともこさんをお迎えし、1960年代～80年代後半の歌謡曲からの選曲を中心とした、歌合戦形式でお送りします。紅白2チームに分かれ、両司会者は、互いに自身が選んだ出場者(出演者)対決でテーマに沿った曲をオンエア。懐かしの名曲たちの夢の対決で一年を締めくくり、新年を迎えようという番組です。今回はこの番組をお聴き頂き、ご講評をお願いいたします。

【 審議番組についての意見 】

委員：日頃のレディオバリーの番組とは少々異質な印象だったが、アップテンポで軽快な印象の番組。二人の語りも軽妙洒落で大変上手だった。
ただ、大晦日の昼間に、「本物の」紅白歌合戦を意識しての企画は面白いが、今一つ焦点が絞り切れていないと感じた。統一感のない様々な曲が登場し、どういう人を対象に選曲しているのか、わかりづらかった。
頻繁に番組のタイトルロールが出てくるのも、集中が途切れてしまい、もったいない。
トーク中のBGMが少々耳障りに感じた。
途中でスポンサーへの電話インタビューが入っていたが、不要ではないかと思った。

委員：二人のかけ合いのリズムが良く、番組に合っていた。
「現実のテレビではできない対決」という視点が面白い。

エピソードの入れ方はよく調べてあって良かったが、時々、なぜこの話？という部分もあった。なるべく誰でもわかるものにしてほしい。

MC 中の BGM にドラクエなどを使い、昭和らしさがあって良い。

魚登久の大将のお話はスポンサー枠としては自然で良かったが、せっかくなら曲のリクエストを聴いても良かった。

曲のエピソードについて、面白いものと、そうでないものの濃淡があった。

このトークで聴き手のイメージが決まるので、しっかり用意した方が良いのではないか。

選曲に個人的な偏りはやや感じたが、年末らしい賑やかな空気は十分出ていたと思う。

音源は短いあまり曲数が聴けなかった気がした。この作り方ならもっと長い尺の番組でも良い。音楽に詳しい二人なので、急いでつながなくても、話を楽しめる気がする。

委員：オープニングは長いのに噛み合わない。サトケンさん松本さんがコンビで話しているはずなのに互いにバラバラな印象だった。事前の打ち合わせがない、ぶっつけ感を感じた。

松本さんはベテランなのだろうが、今回はなぜか「素」でしゃべっているところが多く、「仕事をこなしている」印象だった。技術があるのに、惜しい。

進行・選曲、ともに中途半端で、これならいつもの 30 分番組で充分だったのではないか。

オールウェイズソングは、ラジオには欠かせないジャンル。

「昭和歌謡メモリー」は良い番組なので、これからの更なる活躍に期待する。

委員：冒頭の二人のノリが非常によく、明るい雰囲気が始まったため、

リスナーは肩の力を抜いて、年末のひとときを楽しく過ごせたのではなかろうか。

この番組のターゲットは 30~60 代と幅広い層を想定しているそうだが、渋すぎて、若い層が曲を聴いて番組を変えてしまわないかと若干心配になった。

アニメソング対決というテーマにも意表を突かれた。

うる星やつらは今年、再アニメ化されるという話があり、タイムリーだと感じた。

フォーク対決あたりからバーチャル歌合戦の雰囲気を司会者のしゃべりでうまく表現するようになった印象。

途中、スポンサーが番組に出てきて、宣伝臭があざといかなと思ったものの「鰻は寒中が脂が乗って一番うまい」という話も聴き出しており、役立つ情報だった。

1 時間の番組だったが、苦痛もなく聴け、年末を笑って過ごせる面白い番組だった

委員：ゲストがかつての著名ラジオパーソナリティということだが、最初から栃木のご縁を話しつつもあまり熱の入る様子ではなく少々不安げに番組がスタートしたのを感じた。

パーソナリティ 2 名の関係性が正直良く把握できず、レギュラーパーソナリティが何か遠慮しているようにも聴き取れ、明らかに噛み合っていない。

歌番組の枠組みなので流して聴こうと思えば聴けてしまうが、番組としてどういう設定なのか最初はよくわからなかった。ジャンルごとの流れは誰に聴かせようとしているのか不明で、正直ついていきにくい。一方でこれらの曲であればきちんと聴いてみたいという思いもあり、そうすると拍手や歓声の効果音が邪魔に感じられた。

曲のネタをトークに色々盛り込んで何とか面白くさせようとする努力は認めるものの、

その多くが滑ってしまっており、正直今回の番組でのトークは聴き続けるのが難しい。

トークも迷走気味で、正直なところ今回のゲストの能力や腕が期待していたものよりも落ちていのように受け止めた。

こういう番組ではむしろ日頃レディオベリーで出演しているパーソナリティ、アナウンサーがパートナーで良かったのではないか。

ゲストから番組内で「茶番」というコメントが出てきたのも興ざめで、やるのであれば徹底してふざけるのも重要なことであり、それがプロに求められるものだろう。

(以上)

(2) その他
なし

(3) 次回開催日程について
委員出席の上、3月14日(月)に審査会を予定しているが、
新型コロナウイルスの感染状況を鑑みて、日程や審議方法を再度検討することとする。

5 答申または改善意見に対してとった措置および年月日
なし

6 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日
(1) 放送 1月30日(日)午後 7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内
(2) 書面 本社事務所に備え置き
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

7 その他の参考事項
なし